

家族に捧ぐジオラマ作り

菅原 春美

小さくて精巧なものが好き

思い返せば、幼いころから、ちまちまとしたものが好きでした。イギリスのジル・バークレム作『野ばらの村のものがたり』シリーズに登場するねずみたちが、木の根や幹を住み家に、大切なものに囲まれて豊かに暮らしている様子や、アメリカのグランマ・モーゼスの作品に出てくる田園生活風景に小さく描かれた人々など。

そんな私が須賀さんに誘われて、野中顧問の研究室を訪ねたのは昨秋のこと。鉄道ジオラマなんて、自分にも作れるのだろうか、制作時間をひねり出せるだろうかと悩む私の背中を後押ししたのは、流血にもめげずに土台を削る須賀さんの姿と、野中顧問に見せてもらった、ドイツのトラムの少しレトロな車体でした。そのほっそりとした車体を見た瞬間、このトラムなら、何か作れそうな気がしたのです。

「デラウェアを食べよ」

構想を練るうちに行き着いたのは、トラムが走るヨーロッパの風景と、ニュージーランドと日本にルーツがある家族の来し方行く末に四季を重ね合わせるといふもの。野中顧問の指導のもと、初心者には到底思いつかない土台構築、レール敷きが始まりました。路線名は夫方家族に敬意を表し、Walsh Tram。最初の指令「デラウェアを食べよ」は、後日ジオラマに植える木を作るためでした。「これが木になるなんて」と、驚きつつ食べたぶどうで作った木は、教会の横に植え、てっぺんにコウノトリの巣を乗せました。



『野ばらの村のものがたり』挿絵



グランマ・モーゼスの作品



元はぶどう!?

春夏秋冬

春エリアは本体後方左手のBayswater駅と、その付近の花畑です。駅には生前会うことができなかった夫方祖父と息子がトラム待ちをしています。

ジオラマの中心にあるカフェ、マーケット、教会付近が夏エリア。カフェは背後の山がシュトーレンに似ていることから、Café Mt.Stollenと命名。作者が大好きなコーヒーとクラフトビールを出しています。右手の円柱のビルボードには、息子が保育園で描いた家族の似顔絵(?)が。左右にはビルボードの反対側で待ち合わせしていて出会えない若い男女の姿があります。教会では人生の一大イベントである結婚式が行われています。

秋エリアは手前の紅葉した木が生えている線路沿いの小道。老夫婦が散歩しています。左手には区民農園で野菜を育てる夫と、パパを手伝いに来た息子の姿。右手にはオープンカーを操るクマが。

冬エリアは本体後方右手のシュトーレン山。娘と息子、サンタに扮した夫が雪だるまと撮影しているところを家政婦は見たばりに見降ろしているのは、本物のサンタクロース!?

「こんなこともあろうかと」

制作の過程ではあれやこれやトラブルが発生すること。その都度、「こんなこともあろうかと」と解決へと導いてくれる野中顧問が、宇宙戦艦ヤマトの工作班長、真田さんに見えること、しばしばでした。素人の思い付きを否定せず、可能にしてくれた野中顧問に感謝です。



教会は作者が挙式した教会をイメージ



天に召された愛猫もビルボードで参加



真田志郎、降臨!

MAMA TETSU!



